《日商簿記2級》
ー工業簿記ー

23. 標準原価計算①

～標準原価計算の概要と計算手順について～

ミッチ「ボキいろは」https://bokiiroha.com

～標準原価計算とは？～

＜標準原価計算の概要について確認しよう！＞

ミッチ「ボキいろは」https://bokiiroha.com

標準原価計算

＜標準原価計算とは＞

・これまで学習してきた個別原価計算や総合原価計算は、実際に発生した原価（実際原価）をもとに製品原価の計算を行う（　　）である。これに対して、事前に設定した目標の原価をもとに製品原価の計算を行う方法を（　　）いう。

標準原価

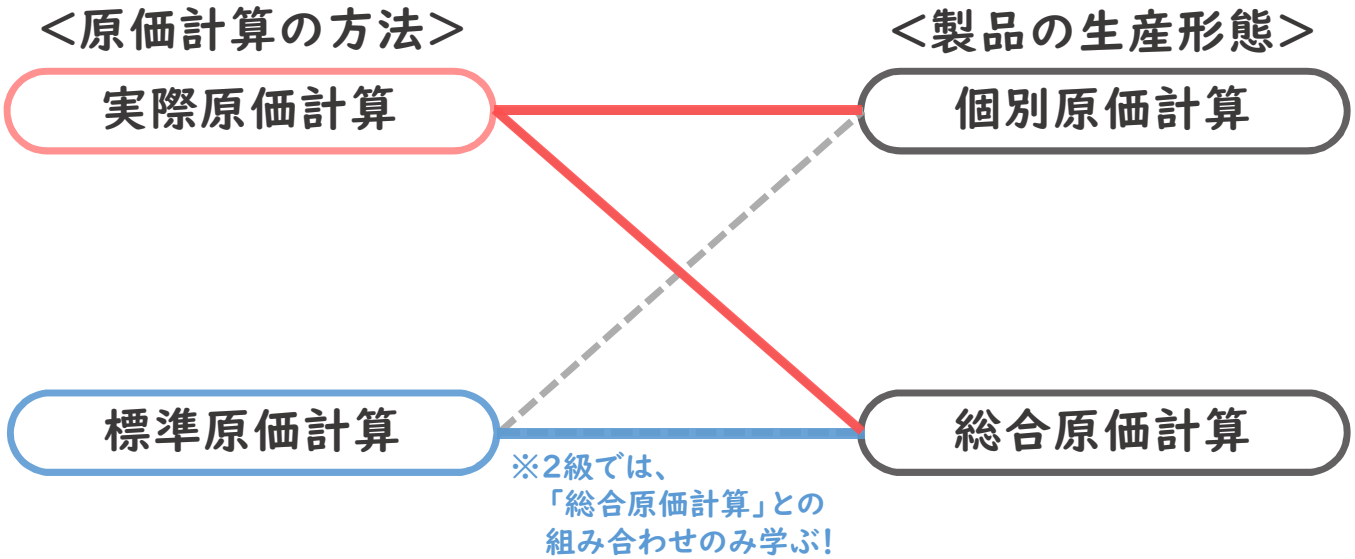
・なお、標準原価は（おおよそで見積った金額とかではなく）、過去数年の実績や経済情勢、市場の需要予測などを考慮して設定されたものである。

科学的、統計的調査に基づいて決められる

●原価計算基準四（一）の1より●
「実際原価とは、財貨の実際消費量をもって計算した原価」

「原価を予定価格等をもって計算しても、消費量を実際によって計算する限り、それは実際原価の計算」

※実際原価であるかどうかは、「価格（単価）」よりも「数量（消費量）」の方が求められる！



○参考（「標準」と「予定」の違いについて）○

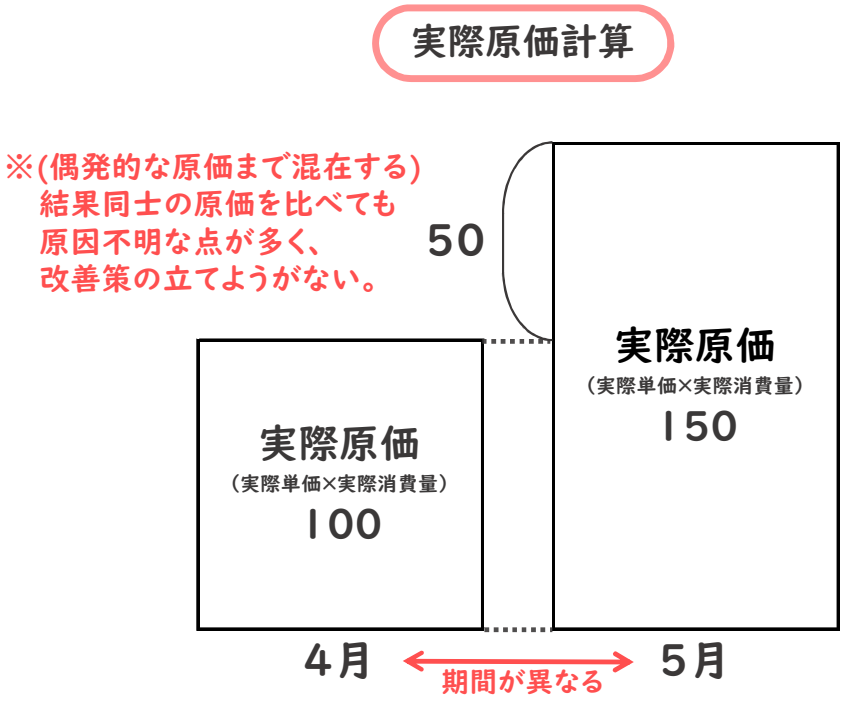
原価計算基準四（一）の2では、「標準原価とは、財貨の消費量を科学的、統計的調査に基づいて能率の尺度となるように予定し、かつ、予定価格又は正常価格をもって計算した原価」となっており、両者の用語そのものにそこまで大きな違いはない。
ただ、「標準」には「（科学的、統計的調査に基づいた）目標値」の意味が込められています。

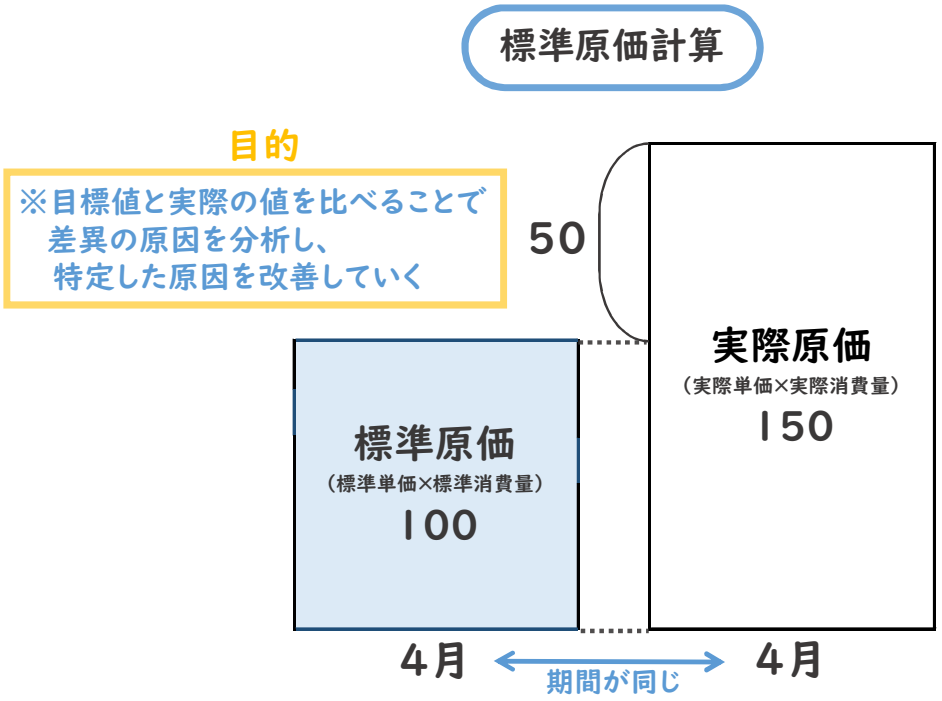
標準原価計算

◎偶発的な出来事について◎
・材料の価格変動
・工員の問題による割り増し賃金の増加
・作業能率の悪化、機械の不具合等による生産量の低下など

＜標準原価計算が誕生した背景と目的＞

・実際原価計算で原価管理を行う場合、異なる原価計算期間の（　　）同士を比較していく。
・ただし、実際原価は、偶発的な出来事から生じる原価まで混在していることが多く、比較したところで原価管理のために有効な情報を得ることは難しい。この問題点を補う方法として誕生したのが「標準原価計算」である。
・標準原価計算の場合は、目標値となる（　　）と（　　）を比較して、この差額（差異）から改善策を検討していく。





標準原価計算

＜実際原価計算と標準原価計算の比較＞

	実際原価計算	標準原価計算
製造原価	実際に発生した原価 （実際原価）	事前に設定する目標の原価 （標準原価）
計算方法	実際単価×実際消費量 または 予定単価×実際消費量	標準単価×標準消費量
メリット	正確な原価情報を得られる	原価の無駄が把握できる 原価管理に優れている 計算が簡単で迅速にできる
デメリット	偶発的な原価が混在するため 原価管理には使えない 原価の集計に時間がかかる	標準原価の設定に時間がかかる

～標準原価計算の計算手順～

＜標準原価計算の全体の流れを把握しよう！＞

ミッチ「ボキいろは」https://bokiiroha.com

標準原価計算

○用語○
標準原価…（事前に設定した）目標の原価
原価標準…製品1個あたりの標準原価（目標原価）

●標準原価計算の計算手順●
①.原価標準の設定
②.標準原価の計算
③.実際原価の計算
④.標準原価差異の計算
⑤.標準原価差異の原因分析

＜標準原価計算の流れ＞

・標準原価計算は、つぎの手順で行われる。

①.原価標準の設定

会計年度のはじめに製品1コ当たりの標準原価となる（　　）を設定する。
その際は、直接材料費・直接労務費・製造間接費に分けて記載した
（　　）を作成する。

標準原価カード

標準直接材料費	標準単価 @500円	×	標準消費量 6kg	＝	3,000円
標準直接労務費	標準賃率 @800円	×	標準直接作業時間 5h	＝	4,000円
標準製造間接費	標準配賦率 @1,000円	×	標準直接作業時間 5h	＝	5,000円
			製品1コあたりの標準原価		12,000円

標準原価計算

<標準原価計算の流れ>

・標準原価計算は、つぎの手順で行われる。

●標準原価計算の計算手順●

①.原価標準の設定
②.標準原価の計算
③.実際原価の計算
④.標準原価差異の計算
⑤.標準原価差異の原因分析

②.標準原価の計算

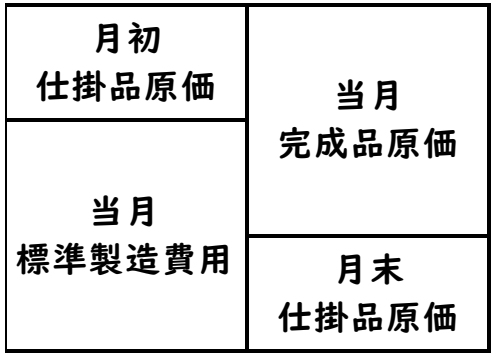
標準原価カードをもとに、当月完成品原価、月初仕掛品原価、月末仕掛品原価、当月標準製造費用（当月投入分の標準原価）を計算する。

月初仕掛品	XXX コ	（○○%）
当月投入	XXX コ	
合計	XXX コ	
月末仕掛品	XXX コ	（○○%）
完成品	XXX コ	

標準原価カード

	標準単価		標準消費量		
標準直接材料費	@500円	×	6kg	=	3,000円
標準直接労務費	標準賃率 @800円	×	標準直接作業時間 5h	=	4,000円
標準製造間接費	標準配賦率 @1,000円	×	標準直接作業時間 5h	=	5,000円
			製品1コあたりの標準原価		12,000円

直接材料費



（直接労務費+製造間接費）
加工費

●ポイント●
これまでの「総合原価計算」と同様に、**直接材料費は「数量」**による計算を行い、**直接労務費・製造間接費（加工費）は「換算量」**による計算を行う。

標準原価計算

●標準原価計算の計算手順●
①.原価標準の設定
②.標準原価の計算
③.実際原価の計算
④.標準原価差異の計算
⑤.標準原価差異の原因分析

<標準原価計算の流れ>

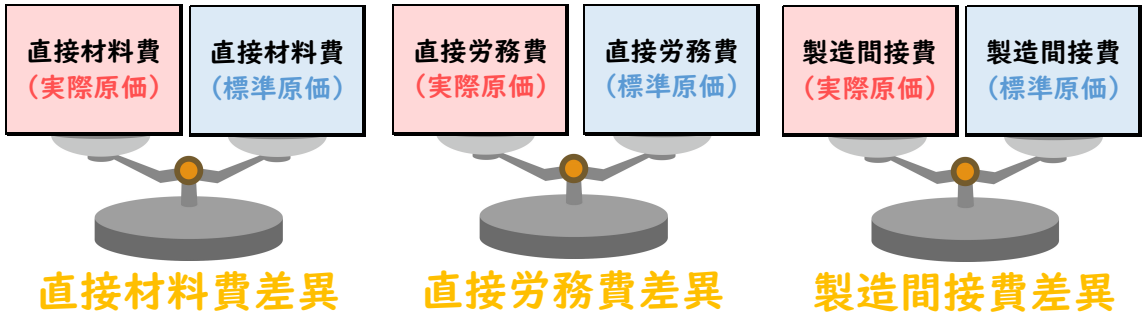
・標準原価計算は、つぎの手順で行われる。

③.実際原価の計算

当月に実際にかかった直接材料費・直接労務費・製造間接費を集計し、
当月製造費用（当月の実際原価）を計算する。

④.標準原価差異の計算

当月の標準原価（当月標準製造費用）と当月の実際原価を比較して、
標準原価差異（直接材料費差異・直接労務費差異・製造間接費差異）を計算する。



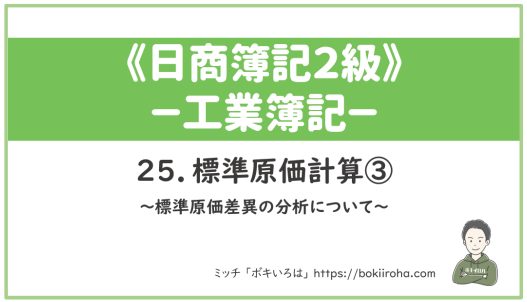
標準原価計算

<標準原価計算の流れ>

・標準原価計算は、つぎの手順で行われる。

⑤.標準原価差異の原因分析

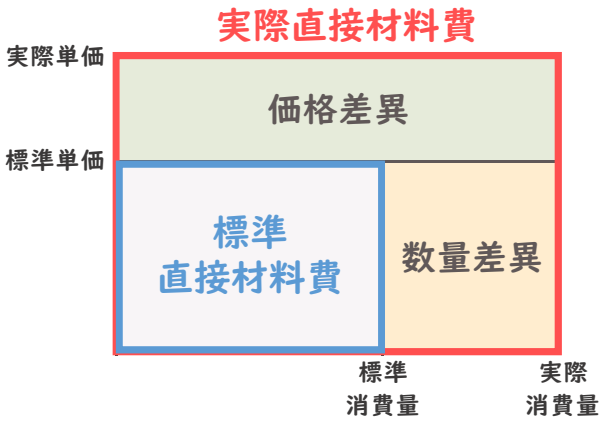
標準原価差異をもとに、その原因の分析を行う。
・直接材料費差異→価格差異・数量差異
・直接労務費差異→賃率差異・時間差異
・製造間接費差異→予算差異・操業度差異・能率差異

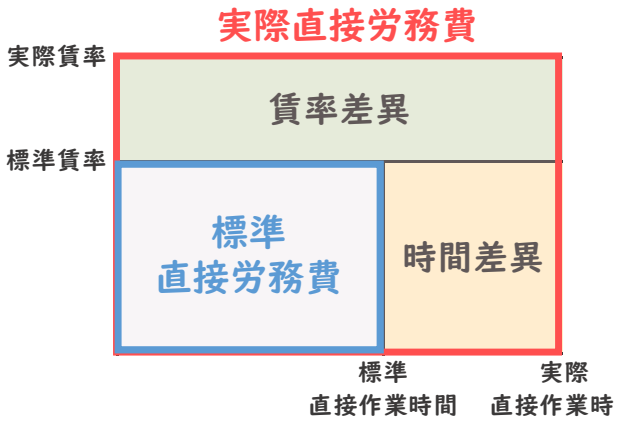


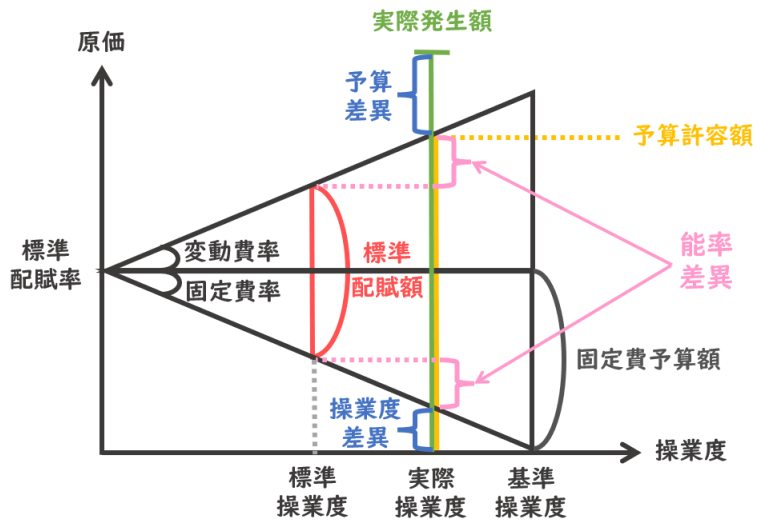
●標準原価計算の計算手順●
①.原価標準の設定
②.標準原価の計算
③.実際原価の計算
④.標準原価差異の計算
⑤.標準原価差異の原因分析

標準原価カード

標準直接材料費	標準単価 @500円	×	標準消費量 6kg	=	3,000円
標準直接労務費	標準賃率 @800円	×	標準直接作業時間 5h	=	4,000円
標準製造間接費	標準配賦率 @1,000円	×	標準直接作業時間 5h	=	5,000円
			製品1コあたりの標準原価		12,000円







～問題解説～

＜標準原価計算の計算手順を問題で把握しよう！＞

ミッチ「ボキいろは」https://bokiiroha.com

標準原価計算

●標準原価計算の計算手順●
①.原価標準の設定
②.標準原価の計算
③.実際原価の計算
④.標準原価差異の計算
⑤.標準原価差異の原因分析

●ポイント●
これまでの「総合原価計算」と同様に、**直接材料費は「数量」**による計算を行い、**直接労務費・製造間接費（加工費）は「換算量」**による計算を行う。

《問題》
製品Aを製造する当社は、標準原価計算を採用している。
次の資料に基づいて、解答欄（1）～（4）の金額を求めなさい。

1. 生産データ

<換算量>

月初仕掛品	100 コ	（80%）
当月投入	500 コ	
合計	600 コ	
月末仕掛品	200 コ	（50%）
完成品	400 コ	

・（　　）内の数値は加工進捗度を示す。
・材料は、すべて工程の始点で投入している。

2.製品A1コあたりの標準原価カード

標準原価カード

標準直接材料費	標準単価 @100円	×	標準消費量 2kg	＝	200円
標準直接労務費	標準賃率 @300円	×	標準直接作業時間 1h	＝	300円
標準製造間接費	標準配賦率 @500円	×	標準直接作業時間 1h	＝	500円
	製品A1コあたりの標準原価				1,000円

仕掛品（直接材料費）

月初仕掛品	完成品
当月投入	月末仕掛品

（直接労務費＋製造間接費）
仕掛品（加工費）

月初仕掛品	完成品
当月投入	月末仕掛品

【解答】

	金額
（1）完成品原価	円
（2）月末仕掛品原価	円
（3）月初仕掛品原価	円
（4）当月標準製造原価	円

標準原価計算

●標準原価計算の計算手順●
①.原価標準の設定
②.標準原価の計算
③.実際原価の計算
④.標準原価差異の計算
⑤.標準原価差異の原因分析

《問題》
製品Aを製造する当社は、標準原価計算を採用している。次の資料に基づいて、解答欄(5)～(7)の金額を求め、その金額が不利差異か有利差異かを答えなさい。

1. 生産データ

月初仕掛品	100 コ	(80%)
当月投入	500 コ	
合計	600 コ	
月末仕掛品	200 コ	(50%)
完成品	400 コ	

・(　　)内の数値は加工進捗度を示す。
・材料は、すべて工程の始点で投入している。

2.製品A1コあたりの標準原価カード

標準原価カード

標準直接材料費	標準単価 @100円	×	標準消費量 2kg	=	200円
標準直接労務費	標準賃率 @300円	×	標準直接作業時間 1h	=	300円
標準製造間接費	標準配賦率 @500円	×	標準直接作業時間 1h	=	500円
	製品A1コあたりの標準原価				1,000円

<換算量>

3. 実際原価に関するデータ

・直接材料費実際発生額:132,000円
・直接労務費実際発生額:107,500円
・製造間接費実際発生額:225,000円

仕掛品(直接材料費)

月初仕掛品 100コ 20,000	完成品 400コ 80,000
当月投入 500コ 100,000	月末仕掛品 200コ 40,000

仕掛品(加工費)

月初仕掛品 80コ 24,000 40,000	完成品 400コ 120,000 200,000
当月投入 420コ 126,000 210,000	月末仕掛品 100コ 30,000 50,000

【解答】

	金額
(5)直接材料費差異	円 (　　) 差異
(6)直接労務費差異	円 (　　) 差異
(7)製造間接費差異	円 (　　) 差異

≪まとめ≫

標準原価カード

標準直接材料費	標準単価 @500円	×	標準消費量 6kg	=	3,000円
標準直接労務費	標準賃率 @800円	×	標準直接作業時間 5h	=	4,000円
標準製造間接費	標準配賦率 @1,000円	×	標準直接作業時間 5h	=	5,000円
			製品1コあたりの標準原価		12,000円

- 標準原価計算は実際原価計算の問題点を補うために誕生したものである
- 標準原価計算では、目標値を用いた（　　）で計算を行う
- 標準原価と実際原価の差額は差異として把握していく（原価管理に役立てる）
- 標準原価計算の計算手順は、「①.原価標準の設定→②.標準原価の計算→③.実際原価の計算→④.原価差異の計算→⑤.原価差異の原因分析」の流れで行われる

※この回の動画が「いいな♪」「役に立ったな♪」と思ったら、
ぜひ、高評価をお願いします❣

第23回の内容お疲れさまでした♪